

## 第四回「防災スペシャリスト養成」企画検討会 議事概要

## 1. 検討会の概要

日 時：平成 26 年 12 月 09 日（火）10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 5 階 共用会議室 A

出席者：林座長、岩田委員、牛山委員、大原委員、国崎委員、黒田委員、丸谷委員、市川教授、中林教授

## 2. 議事概要

議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

## (1) 「標準テキスト（案）」の検討

- 標準テキスト(案)の内容はチェックが必要である。各コースにコーディネーターを立てて、順次、確認していただきながら内容の精査をしていけばよい。
- 標準テキストは、知識ベースの整理であり百科事典のように体系的に並べ整理していけばよいのではないか。
- 予防から直前、応急、復興までの一連の流れの中で、防災としてやらなければいけない仕事を整理しておく必要がある。
- 講師に対し、標準テキストの利用をお願いすればよい。必ず説明してほしいスライドを整理し示すようにしてはどうか。
- 危機管理総論など、総論の内容を特にブラッシュアップすればよい。「首長のための防災の基本」という観点で総論の整理を進めればよいのではないか。
- 防災基礎という名称は変えた方がよいのではないか。現テキストの内容は基礎としての内容ではない。防災の基礎の内容は、コンパクトなものでよい。
- 防災スペシャリストに、テキストで示す内容を知ってもらわなければいけないのであれば、研修では、全て取り扱わなければならないのではないか。
- 災害状況などの事実情報や発生傾向などを掲載し、充実させていけばよい。
- 現テキストは知識ベースとなっている。より有効な内容に更新していくべき。

## (2) 防災スペシャリスト養成の体系化の検討

- テキストは、線を引いたり付箋を貼ったりすることでチェックリストとしても使用でき、オペレーションの確認にも役立てることができる。テキストの使用の仕方についても関連付けて整理すべき。

- 分厚い標準テキストではいざという時には役に立たないため、チェックリストは必要。プロダクツとして「防災スペシャリスト養成の体系化」を示した図に関連付けておくと良いのではないか。
- eラーニングは、映像を見て、講義動画を見て、そしてクイズで確認するという流れの位置づけとして整理すればよいのではないか。
- eラーニングでは研修前に基礎的なことを予習し、研修では議論をメインにするという反転授業を組み込むことも可能ではないか。
- 研修前後に体験談などの実践的な知識や映像を見ることも組み込むべき。
- 映像には、体験談の記録もあれば研修での講話などの記録もあるが、体系的に収集整理されていない。アーカイブを作り、共通資産化することが大事ではないか。また、既存のアーカイブを活用することも必要ではないか。
- 体験談は、うまくできたこととして捉えられてしまうことが多いが、体験談を聞いた上で、「もっと良い対応があったのではないか」「本当は間違った判断ではないか」など確認をすることも重要。体験談をケーススタディとし、研修を通じてその対応が正解かどうか議論するなどの方法もある。
- 体験談の映像は、テレビ番組のように長いものではなく、ある程度の短さで作成した方が利用価値の高いものとなるのではないか。
- NHKの東日本大震災アーカイブスのホームページでは、1～2分の短い映像が多く用意され利用できるようになっている。その活用などできないか。
- 講義を撮影し、そのビデオクリップを素材とすることはできるのではないか。
- 経験談は、全てがよい話であるわけではなく、月並みなものが多いことも事実。多くの経験談が記録されていくことが重要ではないか。
- 10テーマで行っている研修の履修の仕方や各テーマの教育効果のはかり方を検討し、防災スペシャリストの履修を体系化する必要があるのではないか。
- 振り返りを通じてどのように災害対応を評価し改善するかなど、対応の質を向上させるための方法論やAARの作成の仕方を学べる講義が必要ではないか。
- 一人の職員が10テーマの研修に繰り返し参加するのは困難であるため、一つの自治体で10テーマを達成できればよい。また、より多くの人々が学べる環境として、講義映像や標準テキストなどを提供していくべき。
- 防災基本計画で示されている内容を実現化することをゴールとして、研修のコースが今の枠組みでよいか吟味、評価すべき。
- 講義を受けた人が、職場で解説する上で使ったり、自主的な勉強会の材料として使うなど、標準テキストの使い方を整理し普及促進してはどうか。

- 人的ネットワークの活用として、災害時は現場での支援を行い、平時は訓練の企画段階から支援するなどの仕組みが必要ではないか。
- 能力の高い人間を養成しただけでは組織の能力が向上されるわけではない。研修修了者がいる組織に対し出前の訓練を行い、標準的な対応の手順を教えれば、職員が異動しても、マネジメントの仕組みは組織に残される。
- 人的ネットワークを活用し、災害時は現場に乗り込み、平時は訓練の企画段階から支援するなど必要ではないか。
- 「防災スペシャリスト養成の体系化」は、個人がどのようにスペシャリストになっていくかが示されている。eラーニングと研修との間に達成度評価を組み込むことで、段階的に能力向上がはかれることが分かりやすくなる。
- 「防災スペシャリスト養成の体系化」は、組織側からどのように防災スペシャリストが養成されるかがわかる図にしてはどうか。避難、物資、医療などの分野別にスペシャリスト養成を達成できるように示せるのではないか。
- 防災スペシャリスト養成の考え方を整理していくにあたり、インストラクショナルデザインの方法を踏まえるべき。まずクイズを整備しそのクイズに正解できる能力を身につけてもらうための学びの体系を組み立てればよい。
- 防災スペシャリストは、分野別に養成されていくことでよい。分野ごとのクイズで高い点数が取れる人は、その分野の防災スペシャリストといえる。
- 防災監など地位に応じた防災スペシャリスト養成の道筋があってもよい。
- 防災スペシャリストとして身につけるべき領域として、オペレーションとマネジメントがあるのであれば、いずれもクイズの対象とする必要がある。
- コーディネーターと各講座の講師に、防災スペシャリスト養成の理念を理解してもらうことが重要。事前に意識合わせを行うことも必要ではないか。
- コーディネーターがコースを設計し講師を定めるにあたり、人材バンクを整備するなどして、選定できるようにしておくもよい。
- コーディネーターの位置を高め、モチベーションを上げるためにも、防災スペシャリスト養成研修コーディネーターなどの肩書きを与えることが必要。
- 将来的には、人材育成のための専任組織をつくり、専任者や準専任者を配置する必要があり、その方向性を検討していくべき。

以上